



STOP 糖尿病

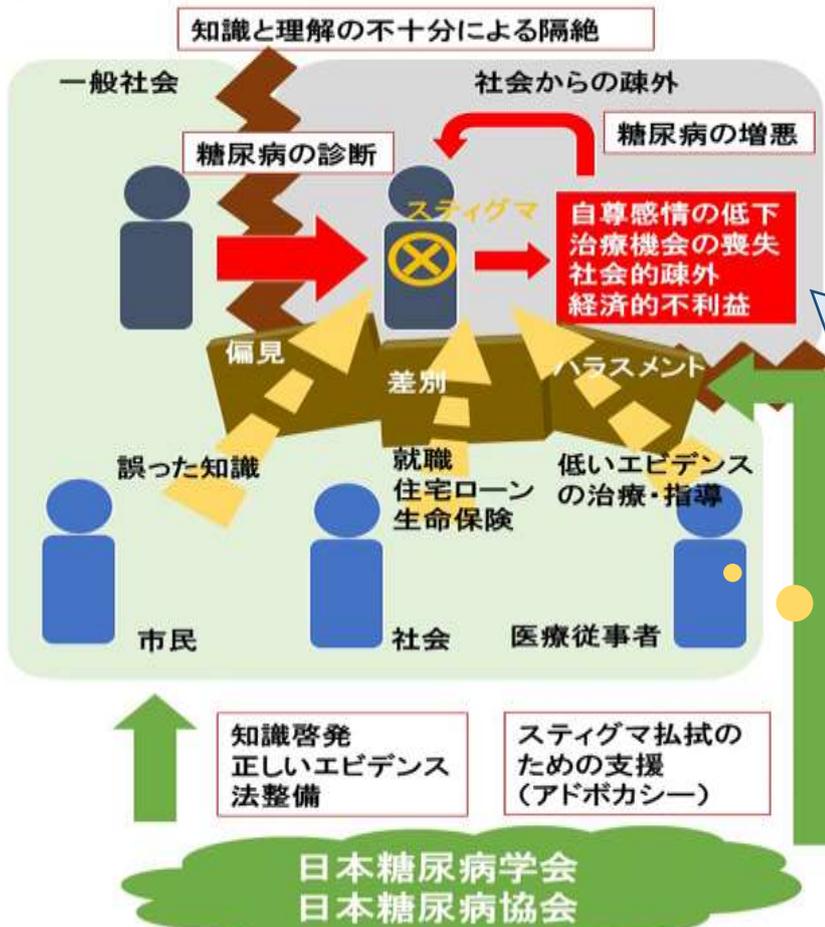
糖尿病ケア通信第2号 2022. 5. 9 発行

「糖尿病とスティグマ」という言葉を聞いたことがありますか？

スティグマとは恥・不信用の印、不名誉な烙印 ある特性の属性により、いわれのない差別や偏見の対象となること。

糖尿病臨床において、重要な項目として近年注目を集めており、日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド2020-2021」の治療目標に初めて掲げられました。

糖尿病のスティグマの環境構造



日本糖尿病学会 日本糖尿病協会リーフレット抜粋

糖尿病に対する社会からの差別と偏見が、糖尿病患者に社会的、経済的不利益を与え、患者自身の社会的地位と自尊心を著しく損なっている。

【スティグマが患者に及ぼす影響】

- ・糖尿病の診断を否定
→ 診断内容を周囲隠す
- ・糖尿病を知られることへの恐れ
→ 社会生活への参加を避ける
- ・スティグマの恐れから病気を開示できない
→ 病気を隠し続ける

医療従事者が患者のためにと考えて話した言葉が、スティグマとなり患者を傷つけてしまうことがある。

日本糖尿病学会と日本糖尿病協会が合同で、糖尿病患者が安心して社会生活を送ることができる社会形成を目指したアドボカシー活動を開始した。

私達医療者は、教育と称し、患者を無駄に怖がらせるような事を話していないか、糖尿病だからと我慢する生活を強いていないか。医療者－患者関係が上下関係になりやすいため、伴走者、患者に寄り添う医療を目指して関わっていくことが大事。今一度患者との関りを振り返ってみましょう。

文責：成田

